
仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

亜雲AZ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

【Nコード】

N1068X

【作者名】

亜雲AZ

【あらすじ】

人気御礼！ついにあの超スピンオフが帰ってきた！ここならではのファイマギメンバーの顔が…！？本編のネタバレを含みますので、閲覧には気をつけてください（一応注意はつけておきますが、できれば最新話を読んだ上での閲覧をお勧めいたします）

ほむら「あなた達はいいわよねええええええオルフェノクに対抗できて!! 私なんて……私なんてええええええええ!!」
口ケツ
トランチャー連発

三人「「「キャラが微塵も残ってなあああああいッ!!!!」
ほむら「どうせ佐倉杏子も、美樹さやかもオルフェノク倒す展開あるんでしょ!? それに比べ、無力な私はああああ!!!! ギガントでも無ければ無理よ!」

Exceed Charge

ファイズ「とりあえず落ち着け」
ファイズサウンダー

ほむら「ほむっっっっっっっ!!!!」
ちゅどーん

全員「「「ハイパーバトルビデオから持ってきたあああ!!!!?」
「

~~~~~

ほむら「私も、仮面ライダーになりたい」  
巧「それが本音だな」

マミ「陳情……ね」スツ つバラ

まどさや「マミさん!？」

巧「というわけで、今日は特別にある奴を呼んだ。まさに最終兵器  
!」

まどか「それっていったい……?」

門矢士（以下「士」）「通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ  
!」

全員「「まさに世界の破壊者なごころくわいせいiiiiii!」「」「」

士「さて、お前が仮面ライダーになりたいと言ってる奴か」

ほむら「ええ。さつさと頼むわ」

士「なつてないな。『お願いします』、だろ？」

ほむら「……よろしくお願いします」

士「よし、というわけで……変身!」

K a m e n R i d e D E C E D E

ディケイド「仮面ライダーに変身だ!」

さやか「完全にノリが超スピノフ……」

巧「これも超スピノフだからな」

【ケース1 制限皆無の仮面ライダー龍騎】

ディケイド「クウガ以前のライダー、アギトは無理だからな、カードデッキライダーの龍騎から変身だ。今回は鳴滝の全面協力でおーディンを除くデッキ+アビスを用意したぞ」

鳴滝「この中からディケイドを倒すライダーが生まれるかもしれないからな」

ほむら「……」スツ

ディケイド「おっと、掛け声を忘れるのはアウトだ。ちゃんと『変身』と叫べ」

ほむら「その必要はないw」

鳴滝「いいやある！ライダーとは掛け声が肝心だ！これがなければライダーではない」

杏子「じゃあ響鬼はどうなんだよ」

鳴滝「……響鬼は元々ライダーの企画物ではなかったから例外だ！」

杏子「都合のいいおっさんだなあ」

ナイト（さやか）「おおー！これいいわー！」

ほむら「私が主役の企画で何やってるのよー！」

まどか「駄目？」

ほむら「いいえいいわー！」

さやか「差別反対！」

まどか「じゃあ……変身ッ！」「ピキーン

龍騎（まどか）「はあああッ！」シャキーン

杏子「流石主人公、似合うな」

王蛇（巧）「ふっ」手首スナップ

全員「……なんで本職ライダーの主人公は悪のライダー選択してんだあああああー！」

龍騎(まどか)「でもなんでだろ！ 似合うよ！」

ナイト(さやか)「草加の方が似合う気もするけど。首回し的な意味で」

杏子「まあ、チンピラみたいな奴だからな、たく……いぬ……むう……」

マミ「まだなんて呼ぶか決まってるのね。本編でてないし」

杏子「いやでてるわ……っと、マミこれ使え」 つカードデッキ

マミ「いいけど……変身！」

龍騎(まどか)「……」

ナイト(さやか)「……」

ゾルダ(マミ)「……」

王蛇(巧)「……ハイパーバトルビデオか」

Dアギト「黒歴史を持ってくるか」

全員「……そういうあんたもちっちゃかり空気呼んでんじゃねえよ！」  
「」

巧「さて、杏子も使え」

杏子「あれやらせたいだけだろ……変身！」

王蛇(杏子)「……食うかい？」

ナイト(さやか)「違和感なーし」

アビス(巧)「鮫ライダーと聞いて」

王蛇(杏子)「確かにファイズも裏モチーフ鮫だったか」

シザース(マミ)「皆、これはどうかしら！」

全員「……なぜよりもよってそれチョイスした!?!?」「」

オーデイン（キュウベえ）「僕と契約してかめ……魔法少女になつてよ！」

全員「……オーデインないんじゃないかなかったのかあああ！でも契約厨だけに似合うわ……！」

キヤツキヤツ

タイガ（ほむら）「……次」  
ディケイド「……わかった」

【ケース2 オンデュルライダーと音撃戦士】

ディケイド「今度はブレイドだ！ こつちも比較的制限は低い！」

ブレイド（さやか）「私は正義の味方になるんだ！」

ギャレン（マミ）「私の体はポロポロだ！」

ディケイド「お前達似合いすぎだ」

ブレイド（さやか）「褒めすぎだつてチーズ」

ディケイド「誰がチーズだ」

レンゲル（ほむら）「……次い！」

さやか「マミさん！ これお願いします！」

マミ「？ ……ええ。変身……」キーン

響鬼（マミ）「たあぁー！」

さやか「よし、もういいつす」

響鬼（マミ）「……解除」



Uさやか「僕に釣られてみる?」

Kマミ「泣けるわよ!」

R巧「一緒におどろ! 答えは聞いてない!」

ほむら「地味に乾巧は黒歴史をえぐられてる……」

デイケイド「今回はキバ以降のライダーに変身だ!」

T o B e C o n t i n u e d .

FILE 1 【陳情！ ライダー変身！！前編】（後書き）

FILE 2 【陳情！ ライダー変身！！その2】をお楽しみに！

FILE 2 【陳情！ライダー変身！！後編】

ガタツク（さやか）「前はほむらの欲望からライダー変身の回となり、今回はその続き……ってなんでガタツク？」  
マミ（爆死ですわかります）

【ケース4 変身しなさい。そして泥棒はちゃんと返してきなさい】

ディケイド「よし、今度はキバ……と行きたいところだが、今回はイクサだ」

ほむら「なぜ!？」

ディケイド「死にたいならいいぞ」

巧「キバの変身には『魔皇力』ってのが体内に流れるから、普通の人間はそれで死ぬらしい」

ほむら「……イクサでいいわ」

ディケイド「よし、ではここで特別コーチの登場だ」

名護「さあ、私についてきなさい」

全員「……本物来たあああああ!」「」「」

名護「私のことは、7・5・3、と呼びなさい」

R杏子「そんなのは聞いてない!」

さやか「リュウタロスまだいたのかよ!? てか出てけ!」

名護「では、イクサに変身するにあたっての重要事項がある」

ほむら「……何かしら」ゴクッ

名護「それは『イクササイズ』だ！ さあ、私と一緒に！ 腕振りなさい！」

ほむら「そんな暇はないわあああああああ！！」

名護「そしてもうひとつ。『753は315です』！ さあ、言いなさい！」

ほむら「誰が言うかあああああ！！ さっさと変身させなさい！」  
名護「駄目だ。これはイクサに変身するに当たっての必須事項なんだ！」

ほむら「じゃああなたよりずっと前からイクサだった人間はどうなの！？ してなかったじゃない！」

イクサ（杏子）「その命、神に返しやがれ！」

ほむら「ってまああた私をおいていくのかあああああ！！ これ私は私が主役なのに！」

杏子「753は315です！」

ほむら「ってもう毒されてた！？ 名護教に毒された！？ さやか「名護教って何だよ！？」

イクサ（杏子）「え？ イクサって『変身』と『753は315です』って言わなきゃ変身できないんじゃないの？」

全員（（ああ……この娘アホの娘だ……）（））

イクサ（名護）「さあ、次はディエンドだ」

ディケイド「ディケイドは使えるか微妙だからな」

巧「チノナマコが変身してたからな……制限は軽いのか？」

ディエンド（ほむら）「……何かいや」

巧「なんか似合ってるな」

杏子「やってること大して変わんねーもんな」

ほむら「あなたただけには言われたくないわ！」

【ケース5 二人で一人？】

ディケイド「今回は特別仕様で、互いをよく思い、心を通わせている者同士で変身できるようにした」

ほむら「よし、これなら……！」

まどか「？」 まだあまり仲良くなってない

さやか「やだよ」 生理的に無理

マミ「私は別にかまわないわよ？」 ぼっち安定。ていうかむしろ敵対状態？

杏子「ふぁ……眠い」 ファイマギだとまだ会ってすらない

巧「俺も無理だな」 信頼関係とか無し

ほむら「……私ってほんとバカ」

さやか「しばかれないのか己は」

【ケース6 ハルルさん公認！ オーメダル適合】

ディケイド「さて、今回の本命というべき、オーズだ！」

まどか「えっと、ここで活動しているハルルさんって人が作った適応事情を公認のもとでやらせてもらってます！」



ラトラーター（ほむら）「スピードアップ的なつながりかしら……？」

さやか「ついでにあたしはわっと！」

シャチ！ カマキリ！ チーター！

シャキリーター（さやか）「タトバはできないかーコンボなんかできないか……」

シャチ！ ウナギ！ タコ！ シャシャシャウタ！ シャシヤシャウタ！

シャウタ（さやか）「なんか複雑」  
マミ「魚系だものね」

杏子「あたしはなんだろうーなーっと！」

タカ！ カマキリ！ チーター！

タキリーター（杏子）「なんとなーく察しがついた。これが」

クワガタ！ カマキリ！ バッター！ ガーツタガタガタキリ  
ツバ・ガタキリバ！

ガタキリバ（杏子）「最初に言うておく！ 作者は本気で「バカキリバ」と打ち間違えた！」

巧「分身関係か」

さやか「どうでもいいけど13人って狙ってるよね明らかに」

「マミ」さて！ 私は！」

タカ！ クジャク！ ゾウ！

タジャゾ（マミ）「アレ……？」

シャチ！ クジャク！ ゾウ！

シャジャゾ（マミ）「まさか……」

サイ！ ゴリラ！ ゾウ！ サッゴーズ・サッゴーズ！！

サゴーズ（マミ）「何かいや！」

巧「女としてサゴーズは受け入れにくいだろうな……」

デイケイド「さて、誰か紫コンボやらないか？」

巧「流石に無理だろ」

さやか「そーそーそれに手を出せる奴なんて……」

プテラ！ トリケラ！ ティラノ！ プットッティラーノザ  
ウルスッ！

プトティラ（まどか）「あはは……」

全員「「「おいしいいいい！ 何やっちゃってんだああああ……！」

「」

まどか「ついでに言うと全てのメダルに適合したよ？」

デイケイド「ここに来てまさかの女神パワーとは……」

~~~~~

ほむら「ちょっと冷静になって考えてみたの」
巧「どうした？」

ほむら「これ……やったところで結局本編で変身できないじゃない
……orz」

巧「……おい、なんとかならないのか？」
ディケイド「……無理だな」

~~~~~

フォーゼ（マミ）「うふふ……宇宙に来ちゃって怖くない！」  
杏子「ここに新たな名台詞が誕生しつつあったのだった……」

To Be Continued .

**FILE 2** 【陳情！ ライダー変身！！後編】（後書き）

今回はめちゃくちゃでした；

次回は番外らしいことやってみたいです。

FILE 3 【絶叫！ 擬人化は恐ろしい!?】

まどか「巧さん！ 聞きたいことがあります！」

巧「まどか!? どうした？」

まどか「あの、龍騎のライダーの数ってわかります!?」

巧「え!? まあ、色々あるけど、基本は13人だな……どうかしたのか？」

まどか「ほら、杏子ちゃんって、『ロツソ・ファンタズマ』っていう必殺技があるじゃないですか！」

杏子「あゝドラマCDか。あれは恥ずかしかった／＼」

巧「それで？」

まどか「それでなんですけど、分身の数が13人なんですよ!? ただでさえ龍騎に似ていると言われているのに、これって偶然なんですか!？」

巧「知らねえよ； まあ、確かに気になるな」

杏子「んなこと言われても……あれは偶然だよ。あれはそんなときの段階だったし。確か、末期は50人ぐらいだったかなあ」あくまで作者の想像です

巧「流石ガタキリバ適合者ここでもかぶった！」

さやほむ「ぎゃあああああああああああ!?!?!?!」

全員「……なんだなんだ!?!?!」

杏子「さやか！ ほむら……とキュウベえ？ 何があった！」  
キュウベえ「わけがわからないよ……」

????「うう……」メイド服の少女

まどか「この娘誰!？」

巧「あれ……? ここにあつたオートバジンは……?」

????「はっ! ご主人様ああああっ!!」巧に抱きつく

巧「うおああああああ!!?」

さやか「ちょ……巧iiiiiiiiiiiiiiiiiiiiっ!?!」

マミ「あら、やきもち?」

杏子「ちっ」

さやか「違いますから後杏子は舌打ちすんな!？ 巧、その娘がオートバジンだよ!」

巧「ああ、そうなのk……って待てえええええええ!?!? どうしてそうなった!?! こいつが俺のバイクだとおおおおお!?!」  
オートバジン? 「きゃっご主人様ったら『俺のオートバジン』なんて……」

巧「変な解釈すんな! なんてこうなつたんだ!?!」

さやか「実は……」

~~~~~

キュウベえ「うわあああ!!」

さやか「うわっ!? 危なッ!」

ほむら「追い詰めたわ……これであなたも終わりよ……!!」 つつ
ラスコ

さやか「ちょ……転校生! 何してるのさ!」

ほむら「冥土の土産に教えてあげるわ」

さやか「冥土って何だよ殺す気か!？」

ほむら「これはいわば感情を持たせる薬! これを浴びたら最後、
キュウベえ、あなたには感情が生まれる!」

キュウベえ「それは困るよ! 感情が無いからこそ今の仕事をやれ
ているというのに……!!」

ほむら「だからこそ……食らいなさい!!」バシヤア

キュウベえ「うわあ!」かわす

さやか「ちょ……巧のバイクにかか……!!」

オートバジン 薬かった

さやか「これだいじょ……ってなんか光りだしたああ!!?」

ほむら「しまっ……!?!」

オートバジン「カツ!

~~~~~

さやか「……というわけで」

ファイズ「そうか……とりあえず、ほむらとキュウベえ……覚悟し

る！」 グランインパクト

ほむら「ほむばっはああああああああ！！！」  
キュウベえ「キュツぷい！」

オートバジン「改めてご挨拶を。私、ご主人様に使えるスーパーハイテクバイク『オートバジン』です。『バジンたん』でもおよび下さい」

SL「」

巧「おい……スマートレディイイイイイツ！！？」

SL「まさか、こんなことになるなんて」

さやか「その人ですら混乱してるってことは、これ相当だね……ま、これはこれでいいんじゃない？ バジンたんかわいいし」

バジンたん「……気安く呼ばないで寝取られ女が」

さやか「誰が寝取られ女だああああ！！ 本編じゃまだ寝取られでないし！」

全員「……なにこれこの娘毒舌！？」「」

バジンたん「大体なんですかあなた、ご主人様とフラグ立てて……餓鬼風情がご主人様をくつつけるなんて思うなよ」

さやか「それは作者の気まぐれかなんかだって！ ていうか機械が何を言うかああああああ！！！」

杏子「さやか落ち着け」

バジンたん「そうです。出番無しの言うとおりです」

杏子「んだと影薄いバイクのくせしやがってえええええ！ ていうか一応先行登場してんだよ！！！」

マミ「あなた達少し落ち着きなさい！」

バジンたん「一番落ち着くべきは本編のあなたですよね？」(15話  
現在)

マミ「……orn」

ほむら「くくく……ざまあ無いわね」

まどか「こういう皆も悪くないかも……」

バジンたん「そうですねー」

巧「なんでほむらとまどかとは馬が合うんだ!？」

SL「S属性ですね分かります」　かくいうこいつもDSである

杏子「自分でいうのもただけど、あたしSだぞ……?」

さやか「あんた攻めだけど、実際は受けでしょ？」

杏子「ちくしょうあたしに攻めの力さえあればさやかも……」

さやか「いやそっちの気ないから」

まどか「まあ、私に対してはDMだけどねー」　ぐりぐり

ほむら「まどかあああもつと踏みつけて!」

巧「お前らは何やってんだあああああ!」

さやか「……」　ぐり

巧「なんでお前はうらやましそうに!？　公式でM設定だからか!」

バジンたん「そーですかーじゃあこれでも食らいなさい」　マシ  
ンガン発射

さやか「ぎゃあああああ普通に痛えええええ!」　ズダダ  
ダダダダッ

杏子「さやかあああああああ!」

巧「おい……いい加減にしろおおおおお!」

バジンたん「！」ビクッ

巧「こいつらを傷つける気なら……お前捨てるぞッ!?!」

バジンたん「きゃああああごめんなさいごめんなさいごめんなさいご奉仕しますからあああああ!」

巧「んなもんいらんわあああああ! あと謝るなら他の奴らに言えええええ!」

バジンたん「皆さんすみませんでしたああああ!?!」土下座

さやか「はあはあ……流石所有者!」

杏子「何気に興奮してんじゃねーよドMさやか! てかあれいつ戻るんだ!?!」

SL「下手すると……ずっとあのまま……」

まどか「なんだか怖いよ」

ほむら「感情がない機械でああなるのだから……キュウベえもまさか……」

ほむら「……はっ!?!」ガバッ

ほむら「……夢落ち……よね。ていうかそんな薬無いし……」

ほむら「……キュウベえが感情持ったら持ったらでめんどくさくなりそうね……」

巧「で、これ結局何が書きたかったわけ?」

まどか「本編のうっぷんばらし……ですかね？」  
さやか「むしろさ、オートバジンヤンデレそうだね。『……浮気  
は許さない』って感じでさ」  
杏子「そっぴやファイズって別のバイク乗ってたよな。ジェットな  
んたら」

オートバジン『P i P i (訳：そんなことないもん)』

**FILE 3 【絶叫！ 擬人化は恐ろしい！？】（後書き）**

次回、ファイマギ超スピノフは！

???? 「たのおおおお！！」

杏子 「誰だあんた！？」

士 「俺が連れてきた！」

巧 「何してんだお前はああ！！」

???? 「龍騎代表として……戦う！」

杏子 「おもしろいじゃん……変身！」

**FILE 4 【戦慄！ カードバトル】**

戦わなければ生き残れない！

巧 「最初に言っておく。あくまでギャグだからな！？」

FILE 4 【戦慄！カードバトル】

さやか「しっかし、MADとか見ると本当にまどマギって仮面ライダーだなあ」

マミ「私の退場の仕方といい龍騎に似ているわね」

まどか「杏子ちゃんの必殺技とかね」

杏子「前回のくだりをまだ言うか」

士「よお」

まどか「あ、士さん」

巧「ディケイドか。どうした」

士「え〜っと……ああ、アング。お前だ」

杏子「アングじゃない！……で、何さ」

士「ああ、お前に文句があるっていう奴がいてな。ちょっと話してもらいたい」

杏子「はあ？」

????「たのもおー！」 灰色のオーロラから登場

さやか「誰かキタアアアア！?!？」

まどか「あれ？ 二の子どろかで……」

サトシ「俺、マサラタウンのサトシー！」

全員「……なんで来ちゃったの!!!?」「」

杏子「てかなんで!? まさかのポケモン世界からこんにちは!?!」

サトシ「あれ、アイリス?」

まどか「サトシったら子供ね……って違うよ!?!」

マミ「中の人ネタわかります」

さやか「中の人なんていない!」

巧「お前が言つと元ネタ的な意味で怖いわ」

さやか「どうせ三角関係ですよ寝取られましたよあたし病みましたよこんちくしょう!」

マミ「大きなお友達にしかわからないようなネタは避けて!?!」

キュウベえ「そもそもまどマジ自体その大きいお友達が見るものなんじゃないかな?」

まどか「キュウベえがまともにつ込んだ!?!」

キュウベえ「むしろ僕はそういうキャラじゃないのかな?」

ほむら「で? 一体何が言いたいのあなたは」

サトシ「アンコ! 龍騎代表として物申す!」

杏子「誰がアンコだあああああ!?! てかお前もそれか!?! それ以前に代表つて何だよ!?!?」

ほむら「中の人ネタね」 龍騎OPはサトシの中の人

サトシ「13体分身つて……ライダーバトルそのものだろ!?!」

杏子「あれはその時だけだつっの!?!」

巧「かといって50近くもそれはそれでなあ……」

さやか「ANK48<sup>アンコ</sup>つてか」

杏子「AKB48みたいに言っつな!?!」

士「よし、というわけでレッツライダーバトル」

杏子「何でだあああああ！!?」

~~~~~

士「今回はリイマジ龍騎の世界でバトルだ」

ほむら「詳しく言うと、この世界のライダーバトルは比較的安全で、デッキを破壊されても強制的にミラーワールドから出されるだけよ」

サトシ「ここなら遠慮なく戦えるってわけだ！」

杏子「はっ！ たかがガキンチョに負けるかよ！」

まどか「……………そうでもないよ？」

杏子「は？」

まどか「サトシくんはこれまで幾たびの死線を超え、さらに超人的な運動神経を兼ね備え、一部では『スーパーマサラ人』って呼ばれているの！ アイリスちゃん情報！」

杏子「こいつ魔法少女じゃねえのか!?!」

サトシ「少女言うな!?!」

まどか「あ、あと女装させるとレベルが高い」

サトシ「それを言うなああああああ!?!」

マミ「あらあらちよつと見てみたいわね」

サトシ「本気でやめてくださいそれだけはいやだ!?!」

巧「デッキはくじでランダムに選ばれる、オーディンやらのデッキを抜いたライダーデッキから選ぶんだ！」

さやか「せっかくだから、あたし達もやりたいーい!?!」

杏子「いやいや別にいいだろやんなくても!?!」

ほむら「確かに……………ライダー気分を味わいたいわ……………orz」

アイマギメンバーで一番の無力

杏子「……………仕方が無い。やるか」 場合によってはオルフェノク倒

せそうな人

マミ「そうね……」 本編でオルフェノク倒してる人
????「お待ちなさい」

全員「……へ?」「」

キリカ「私達も出るぞー!」

織莉子(以下『おりこ』)「私は付き添いみたいなものだけど……

まあ、キリカが出てくれて言うから……」

杏子「あんた漢字めんどくさいもんな」

おりこ「そんなこと言わないで!?!」

巧「ていっかなんで出てきた?」

キリカ「ここにくれば魔法少女殺れると聞いて」

さやか「オイ;」

ほむら「よし決めた。こいつら殺すわ!」

キリカ「はっ! させないよそんなこと!」

士「まあ、それぐらいにして、くじ行くぞー」

巧「お前はスルーしてんじゃねえよ!」

~~~~~

ライア(おりこ)「……私の占いは当たるわ……」

タイガ(キリカ)「私は(おりこの)英雄になるんだ……」

全員「……はまり役だあああああ!?!」「」

さやか「ぶっちゃけこれやりたくて呼んだろ作者あああああ  
あ!?!」

マミ「それよりどうしてこんなにあっさり!?!」

キュウベえ「これも全て乾巧ってやつの仕事なんだ」

マミ「なんですって!?! それは本当なの!?!」

巧「オイコリアアアアアアアア！」  
さやか「本当は作者の仕業なんだ」

~~~~~

龍騎（まどか）「っしゃあ！……これでいいのかな？」
ベルデ（ほむら）「まどかかわいいわまどか」
マミ「 暁美さんがやばいわ！？」
巧「よりもよってそれか！！」

さやか「あたしは……これが」
巧「俺はこれっと……」
マミ「私は……これは……！？」

~~~~~

士「よし、対戦表だ！」

1回戦：マミVSまどか

2回戦：キリカVSほむら

3回戦：さやかVS士

4回戦：おりこVS巧

最終戦：杏子VSサトシ

杏子「あたしは最後か。当然だけど」  
士「まずは一回戦からだ！」

龍騎「……マミさんは一体なんなんだろう」

巧「観戦はライダー裁判を利用してミラーワールド用カメラでお送りする！ 司会は作者、解説は鳴滝だ！！」

鳴滝「おのれデイケイド！」

キュウベえ「関係ないよね」

鳴滝「これを言わないと落ち着かないのだ！」

巧「自慢すんな」

キュウベえ「わけがわからないよ」

作者「それで、マミさんは一体どんなライダーなんだろう」

鳴滝「おそらく作者おまえの小ネタ好きから、シザースの可能性が高いだろう」

ゾルダ（マミ）「手加減しないわよ？ 鹿目さん！」

全員「……まさかの超火力うううううう！！？」

作者「おおっと、首仲間ではなくまさにファイナーレなゾルダとキタアアアアアア！」

杏子「いやああなたの陰謀だろうが！？」



巧「まどかあああああああつ!!?」  
作者「おおっと、煙がはれたぞおおお！ 果たしてまどかは……  
！」

龍騎「へ？」

ガイ「」

全員「」 そっちのガードベントが来ちゃったあああああ  
あ!!?」「」

作者「おおっと!? まさかの『そこにいたお前が悪い』が発動！  
歩くガードベントことガイが盾となつたああああ!!」

鳴滝「おのれデイクイド！」

サトシ「ていうかあのガイは誰だよ!？」

ガイ（さやか）「あたしはただ……幸せになりたかつただけなのに  
……ガクッ」

杏子「さやかあああああああああッ!!!!」  
作者「あとそれはインペラーだから！」

鳴滝「しかし、本人の結末があれだけに違和感が無い！ おのれデ  
イクイド！」

ほむら「ふう……まどかが助かってよかったわ」フサア

全員「」ていうかあれお前の仕業だろ絶対!!」「」

~~~~~

マミ「おかげで私達の戦いが無効試合になったわ……」

黒まどか「大丈夫です。あとでほむらちゃんにはサバイブでいたぶつてあげますから」

巧「ひき殺す気か」

ほむら「うう……快感……」 まどかに踏まれてる

キリカ「これ結局私の試合も無効じゃないのか？ そして私はおりこに踏まれたい」

おりこ「あのねキリカ……」

杏子「ほむらがあの状態だからなあ……」

さやか「」 気絶中

士「ついでに俺達の試合も無効か」

作者「いくらなんでも展開めちゃくちゃじゃない？」

鳴滝「これも全て乾巧という男の仕業なのだ！」

巧「まさかの俺！？ お前はディケイドいじり専門だろ！？」

士「 変な解釈をするな！？」

士「おつと、もうこんな時間か。そろそろ帰るぞ」

サトシ「ええっ！？」

杏子「おい、あたし達なんもしてねえぞ！？」

巧&おりこ「俺（私）も」

士「よく考えて見る。こんな子供に戦わせられるか」

魔法少女「私(あたし)らはどうでもいいってかあああああ
あ!?!?」「年長でも中3

サトシ「くっそおおお！ 覚えてるアッコ！ いつかりベンジする
からなああああ!！」

杏子「リベンジもなんもねーだる戦ってないんだからっていつかア
ンコって言うな!！」

~~~~~

おりこ「……で、私達なんで来たのかしら;」

巧「よかったら一緒にスピノフ盛り上げないか?」

マミ「というかこの人達そもそもスピノフの人じゃ?」

キリカ「甘いな恩人！ 私達はスピノアウトだ!！」

巧「どうでもいい」

杏子「どうせならゆまも呼べ」

~~~~~

龍騎サバイブ(黒まどか)「アンタが悪いんだぜええええ!?!」

ナイトサバイブ(さやか)「よくもあたしを盾に使ったなああああ

!?!」

ほむら「ほむうううううう!?!?!」 二人にひき逃げされた

FILE 4 【戦慄！ カードバトル】（後書き）

何がしたかったのかって？ おりまぎ勢書いてみたかっただけさ（え
今後はスピンオフではおりまぎ勢もレギュラー入りです。

ちなみに巧が当てたデッキはシザースでした（え

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】（前書き）

今回から織莉子（以降おりこ）、キリカ、ゆまがレギュラー参戦します。

FILE 5 【談笑！ 必殺技はロマン】

おりこ「というわけで」

キリカ「私達もスピンオフにレギュラー出演！」

ゆま「わーいキョーコー！」

杏子「ゆまー！」

さやか「……ちっ」

巧「なんだこのドロドロになりそうな予感……」

マミ「杏ゆまさやですなわかります」

まどか「私達だけじゃあまり盛り上がりませんかからねえ」

ほむら「ところであなた達本編にはでるの？」ジャキッ

全員「……とりあえず銃をしまえ……」

おりこ「一応登場説がささやかれているけれど……それよりなんなのこの平和な感じは。本編のシリアスはどこに!？」

巧「これこそスピンオフオリエイター」

さやか「ていうか銃突きつけられといてそんなこといえるあんたがすげえよ」

まどか「そういえば！」

さやか「どうしたまどか」

まどか「マミさんって仮面ライダーみたいになんか必殺技ありますよね」
マミ「そ、それで？」

まどか「私達もあつたら必殺技がほしんですよ。まあ、私はわからないけど……」

さやか「本編だとあたし人間設定だかねまだ!？」

杏子「まだって予定はあるんかい」

巧「でも、お前らも必殺技あるだろ。……ほむら以外」ポータブルで

まどか「ついでに言うとかずマギの魔法少女は必殺技持ってますよね」
ほむら「なんなの、この無駄にむなしい感じは……」 執筆時公開
されていない

おりこ&キリカ&ゆま「私達に謝ろうか」「無い以前に出番が絶望的

まどか「それに、私気になることがあるんです」
全員「……?」「」

まどか「あるクロスSSでさやかちゃんが『ロイヤルストレートフラッシュ』使ってたんですけど、実際魔法少女に仮面ライダーの必殺技が再現できるのかなって」

巧「そういえばあったなそれ」

杏子「マミならできんじゃない? シャウタとか」

マミ「それはどういうこと!? まさか歌詞関係!?!」

杏子「いや、シャウタの必殺技の『オクトバニッシュ』、あれウナギのムチで相手を空中に投げ飛ばしてとどめにタコ足ドリルじゃない? あれりボンで再現できると思うんだよ」

さやか「なるほどねー」

まどか「でも、そういつたらさやかちゃん再現できそうなの多いよね」

さやか「へ?」

巧「剣を使う必殺技はほぼ出来そうだし、二刀流にすればアギトシヤニングとかガタツクとかも再現できそうだしな」

杏子「あと刀身操って電王の必殺技とかな」

(妄想) さやか「必殺！ あたしの必殺技パート2！」

全員「……違和感がない」「」

さやか「オイ」

ほむら「……というか、美樹さやかにそんな能力があると思うの？」

杏子「あるかもな。もうちょい話長かつたら色々と設定使えたのになー」

さやか「あたしへの嫌味かそれは」 武器に未使用ギミックのある人
マミ「本編で美樹さんの未使用ギミック使えるのかしら」

さやか「そもそもまだ魔法少女じゃ無いですからね」 18話現在

杏子「つーかさやかだけ万能過ぎないか？」

さやか「そう言ったら杏子だって幻惑の魔法使えばバーニングザヨ
ゴとかGKB48とか出来るじゃん！」

杏子「なんなんだそれは；」 ギャレンの『バーニングデイド』
、オーズガタキリバの分身能力です

さやか「あと、インペラーのとか」

杏子「あたしはただ、幸せに……ってこれはお前向きだろどっちか
というと！」

さやか「台詞の意味だろこんちくしょう！」

マミ「そういえば、おりマギのキャラクターにもいるかしら」

巧「キリカならタイガじゃないか？ ツメだし」

キリカ「私二人は必要じゃないかな？」

ほむら「美国織莉子は、むしろタブードーパントね」

おりこ「ナスカメモリ使いますよるか！？」

杏子「ゆまは……思いあたらねえ；」

ゆま「ぷうううう……」

巧「ハンマー使うライダーって……キバがいたな」

さやか「やったねゆまちゃん必殺技ができるよ！」

ゆま「わーい！」

杏子「ゆま騙されるなああああ！！ それ暴行フラグ！！」

マミ「もしかして『やったねたえちゃん』！？ 分かる人いるの！

？」ちなみに作者はピクシブ大百科で知りました

ほむら「そう思うと、巴マミのあの再現率は高かったわね」

マミ「草加ルート辿らせるわよ！？」

シャルロット「よんだ？」

マミ「きゃああああああああああああああああ！！」

さやか「なんでここに魔女がいるんだ！？」

SL「私呼びましたー」

全員「おまあああああああ！！」「」

ほむら「ナイスよ。さあ、巴マミの頭を食いちぎりなさい！」

シャルロット「わたしにめーれーするなー」

ほむら「え！？ どうしてよ！？」

シャルロット「うるしやいわたしにしつもんしゆるなあー」

巧「どこのアクセルだお前は」

さやか「てか転校生は本気で一回自分の罪数えろ！」

まどか「どうせ私関係が全般だろうけど」

ほむら「失礼ねまどか。せいぜい下着とかあなたの口つけた食器ペ

ロペロしたぐらいよ！！」

全員「マジでド変態だああああ！！」「」

黒まどか「……シャルちゃん。あの変態食ってよし」

巧「待て待て待て待て待てええええ！！？」

マミ「orz」 心が折れた
ほむら「 瀕死状態

おりきり「なにこれひどい」

おりこ「ここは平和じゃなかったの!？」

巧「時折こんな状況になる」

さやか「ていうかカオスが普通」

キリカ「なにここ狂ってる」

杏子「お前が言うか!？」

さやか「あ、必殺技といえばクラヒ!」

まどか「ついに全ライダーに超必殺技がついたね!」

杏子「しかもファイズはついに通常クリスマスも! あとカイザ!」

巧「とりあえずガッツポーズしたな知ったときは」

キリカ「私わかんない」

さやか「……………てか今の所これただだべってるだけだよね」

杏子「いんじゃね別に。平和なら」

巧「あいつら見ても言えるのか」

ほむら「 もはや死の淵

マミ「 ふて寝

おりきり「……………はたしてここに来てよかったのだろうか」
ゆま「つづくー!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068x/>

仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオフ！

2011年11月18日04時22分発行